

科目名	中等体育実技Ⅰ（体づくり）		担当教員	熊谷 慎太郎	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1PPE101
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	グループワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、体を動かすことの楽しさを感じられる運動や、目的に応じた運動など現場で役立つ内容を実施する。				
到達目標及びテーマ	学習指導要領における体づくり運動の位置づけと具体的な授業実践方法を理解する。また、体づくり運動の授業を計画、実践することができるようになる。				
授業の概要	まずは、体づくり運動の学習指導要領上の位置づけや背景を理解する。次に、体ほぐし運動の実践例を体験、模擬授業の発案、模擬授業の実践を行う。そして最後に、体力を高める運動の実践例を体験、模擬授業の発案、模擬授業の実践を行う。模擬授業の形態は少人数グループ内で1人ずつ行うこととする。				

授業計画	
第1回	授業の流れと評価方法についての説明 次回までの課題説明
第2回	体づくり運動とは：体づくり運動の変遷と学習指導要領上の位置づけに関する講義、小テスト
第3回	体づくり運動の運動例紹介①体ほぐしの運動（道具を用いない）
第4回	体づくり運動の運動例紹介②体ほぐしの運動（道具を用いる）
第5回	体づくり運動の運動例紹介③体の動きを高める運動（動きを持続する力を高める運動）
第6回	体づくり運動の運動例紹介④体の動きを高める運動（力強い動きを高める運動）
第7回	体づくり運動の運動例紹介⑤体の動きを高める運動（柔軟性を高める運動）
第8回	体づくり運動の運動例紹介⑥体の動きを高める運動（巧みな動きを高める運動1）
第9回	体づくり運動の運動例紹介⑥体の動きを高める運動（巧みな動きを高める運動2）
第10回	資料等を参考に模擬授業の立案・指導案作成（1グループ4～5人）
第11回	グループで考案した運動の実践①からだほぐしの運動
第12回	グループで考案した運動の実践②力強い動きを高める運動
第13回	グループで考案した運動の実践③動きを持続する力を高める運動
第14回	グループで考案した運動の実践④柔軟性を高める運動
第15回	グループで考案した運動の実践⑤巧みな動きを高める運動

事前学修	0.5時間	体づくり運動の位置づけや背景について予習すること。それぞれのエクササイズについて調べること。
事後学修	0.5時間	一部小テストがあるので復習をすること。模擬授業の総括をレポートにまとめること。
フィードバックの方法	レポートや模擬授業について、必要に応じてフィードバックする。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	実施しない
上記以外の試験・平常点評価	80%	小テスト10 参加姿勢20 考案した運動の内容50
レポート	20%	最終レポート20
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	学校体育実技指導資料第7集 体づくり運動－授業の考え方と進め方－・文部科学省・株式会社東洋館出版社・ISBN978-4-491-02928-3 中学校学習指導要領解説（平成29年告示）保健体育編・文部科学省・東山書房・ISBN978-4-8278-1560-3			

科目名	中等体育実技Ⅱ（陸上競技）		担当教員	揖斐 祐治	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1PPE102
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	1) 各種目で必要な用具の選択とセットアップが手早くできる。 2) 高い競技能力を得る。 3) 指導のポイントを得る。 4) 競技会の開催ができる				
授業の概要	陸上競技の基本的な運動種目、走る（短距離、リレー、障害走、中・長距離走）、跳ぶ（走り幅跳び）、投げる（砲丸投げ）の技能を高めるとともに、その指導法を学ぶことを目的とする。そのために、自己の能力に応じた目標や課題を設定し、お互いに協力して練習方法を工夫することができるようにする。また正しい審判方法や指導方法を学び、安全で公正な競技会を開催できる能力を身につける。				

授業計画	
第1回	ガイダンス（授業概要、実技進行の方法、成績評価等説明）
第2回	跳躍1（走幅跳）セットアップ・短距離走1（100m）セットアップ
第3回	跳躍2（走幅跳）三歩助走・短距離走2（100m）スタートポジション
第4回	跳躍3（走幅跳）適切な助走距離・短距離走4（100m）加速局面での走り方
第5回	跳躍4（走幅跳）高さを出す跳躍技術・短距離走5（100m）中間疾走
第6回	跳躍記録会（走幅跳）・短距離走記録会（100m）
第7回	障害走1（50mH）セットアップ・投てき1（砲丸投げ）セットアップ
第8回	障害走2（50mH）スタートから1台目までのポイント・投てき2（砲丸投げ）投てき授業における安全確認、確保
第9回	障害走3（50mH）ハードル間技術説明・投てき3（砲丸投げ）正しい投てき動作
第10回	障害走4（50mH）スムーズなハードリング・投てき4（砲丸投げ）正しい投てき技術（ステップ）
第11回	障害走記録会（50mH）・投てき記録会（砲丸投げ）
第12回	リレー1 バトン技術説明・長距離走（800m）インターバルトレーニング
第13回	リレー記録会・長距離走記録会
第14回	体づくり運動1（雨天時予備）
第15回	体づくり運動2（雨天時予備）

事前学修	0.5時間	前回のレポートを参考に要点や課題を確認し、実技のポイントは30分～60分程度反復練習をおこない身に付けておく事。また経験・体験のなかでしか得られないことが多いため、体調を整え1回も休まないつもりで出席するように。
事後学修	0.5時間	授業の内容や感想、要点やポイントなどを、授業後速やかにレポートにまとめ、毎回提出することを義務付ける。レポートは必ず1時間以上時間をかけて作成する事。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜助言や講評を行う。 毎時間レポート提出を義務付け、次回授業時に講評し返却する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	授業内容、ポイント、次回課題、感想等
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業態度・意欲
上記以外の試験・平常点評価	20%	7種目の競技技術得点

	定期試験	0%	定期試験はおこなわない		
補足事項	7種目の競技技術得点については、各種目の記録を得点化した一覧表をガイダンスで配布する				
教科書					
	書名	著者	出版社	ISBN	備考
	必要に応じプリント配布	なし	なし	なし	なし
参考資料	実技や授業に必要な資料は、こちらで用意します				

科目名	中等体育実技Ⅲ（ゴール型）		担当教員	竹本 康史	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1PPE103
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	ゴール型（バスケットボール、サッカー、ハンドボール）の実技を通して生徒たちに指導する上での基本的な内容を習得する。また、技術の習得だけでなく、指導方法も学び、「安全にからだを有効的に動かすことの必要性和その理解」と「仲間と運動を楽しむ、生活の中に取り入れて生涯スポーツとして実践する能力の育成」を目標に展開する。				
授業の概要	ゴール型（バスケットボール、サッカー*、ハンドボール）の経験の有無に関係なく、基本技術の反復練習をすることにより、初心者対象の課題実践を通して運動経験を増やし、教材としての理解を深める。ルールや審判法もゲームの中で身に付ける。				

授業計画	
第1回	ガイダンス ゴール型（バスケットボール、サッカー、ハンドボール）の理解と学生の技能の把握
第2回	バスケットボール（1）自身の技能の把握とゲーム
第3回	バスケットボール（2）基本的技能の習得とゲーム
第4回	バスケットボール（3）速攻の習得とゲーム
第5回	バスケットボール（4）ディフェンスの習得とゲーム
第6回	バスケットボール（5）リーグ戦の運営方法とその実際
第7回	ハンドボール（1）ポジションの理解とゲーム
第8回	ハンドボール（2）ルール、審判法とゲーム
第9回	ハンドボール（3）作戦とゲーム
第10回	サッカー（1）パス、ドリブル、シュート（対面形式でドリブルからラン、シュート）
第11回	サッカー（2）ヘディング、トラップング（二人組から複数へ）、シュート（組み合わせ）
第12回	サッカー（3）ミニゲーム（パスの重要性を意識）、ルールと審判法の解説
第13回	サッカー（4）ミニゲーム（ディフェンス）3対1（基本カット）、4対2（役割分担）
第14回	サッカー（5）ミニゲーム5対3（役割分担）、チーム反省会（役割確認）
第15回	サッカー（6）ゲーム、チーム反省会（レポート）

事前学修	0.5時間	ゴール型（バスケットボール、ハンドボール、サッカー）の基本的技術とルールを把握しておくこと。毎授業毎に学習内容についても実技書等でポイントを予習しておくこと。
事後学修	0.5時間	授業計画から服装、用具の確認をして準備する。学習した内容について復習して、次回の授業にどのように反映していくべきかを整理すること。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
レポート	30%	種目全体に対してレポートを課す
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業における取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	20%	技術、スキル

上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度。欠席数が授業数1/5を超えた場合、失格とする。遅刻・早退は欠席数0.5回分とする。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	中学校学習指導要領保健体育編			

科目名	中等体育実技IV（ベースボール型）		担当教員	竹本 康史	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2PPE104
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	中学校で学習する（ベースボール型）の目標と学習内容を理解して工夫を凝らし、授業展開する教師の在り方について学び、習得する。				
授業の概要	中学校学習指導要領保健体育編に示される体育（ベースボール型）の目標を達成するために重要な知識や指導法を学ぶ。				

授業計画	
第1回	ガイダンス ベースボール型の理解と授業計画
第2回	打つ・捕る・投げるの基本動作（ボール、グラブ、バットの使い方）
第3回	キャッチボール（投げる、捕る）
第4回	打撃（バットの握り方、スウィング）
第5回	守備（ノックを通して守備の仕方）
第6回	攻撃（ケースから方法を考える）
第7回	走塁（ベースランニング、盗塁の仕方）
第8回	ルール（ケースからの学び）、審判法
第9回	シート（ケースに応じたノック）
第10回	ケースバッティング（走者などのケース別）
第11回	ゲーム1（前半）
第12回	ゲーム1（後半）
第13回	ゲーム2（前半）
第14回	ゲーム2（後半）
第15回	まとめ：学んだことをまとめる

事前学修	0.5時間	中学校指導要領における球技（ベースボール型）についての記述内容を理解しておく。
事後学修	0.5時間	中学校指導要領における球技（ベースボール型）についての教育内容のキーポイントを整理し、説明できること。
フィードバックの方法	実技に対して適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
レポート	30%	種目全体にレポートを課す題
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業における取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	20%	技術・スキル
上記以外の試験・平常点評価	20%	授業への参加度。欠席数が授業数の1/5を超えた場合、失格とする。
補足事項		

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	中学校学習指導要領保健体育編			

科目名	中等体育実技Ⅴ（ネット型）		担当教員	稲垣 良介	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2PPE105
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、生徒の実態に即した指導方法に関する実技を行う。				
到達目標及びテーマ	生徒のつまずきとそれらの手立てを理解し、指導を行うことができる。				
授業の概要	バレーボールの基本技術（サーブ、パス、スパイク、ブロック）を習得する。また、それらを活用した戦術についても実技を通して学び、部分と全体をつなげる。さらに、ルールや施設・用具についても学習し、ネット型球技の基礎的な内容を理解する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション 学生の技能レベルの把握 安全管理 レポートと課題の説明
第2回	バレーボール(1) 技能の把握とゲーム、施設/用具等の取扱方法（安全管理）
第3回	バレーボール(2) ゲームの魅力、本質、ゲームの発展様相
第4回	バレーボール(3) 導入ゲームの作り方
第5回	バレーボール(4) パスの技術ポイント
第6回	バレーボール(5) パスの練習方法
第7回	バレーボール(6) スパイクの技術ポイントと練習方法
第8回	バレーボール(7) コンビネーションスパイクの技術ポイントと練習方法
第9回	バレーボール(8) セッターの技術ポイントと練習方法
第10回	バレーボール(9) 各ポジションの役割とローテーション
第11回	バレーボール(10) サーブの技術ポイントと練習方法
第12回	バレーボール(11) ブロックの技術ポイントと練習方法
第13回	バレーボール (12) フォーメーションの理解とチームプレーの練習方法
第14回	バレーボール (13) サーブとストロークの技術ポイントと練習方法
第15回	バレーボール (14) リーグ戦の実施、学習のまとめ

事前学修	0.5時間	授業前に、授業の学習課題に関する体育授業における取扱いについて調べ、分からないことを質問できるように整理しておくこと。
事後学修	0.5時間	授業で学習したことをノートに整理し、スキル習得の際にポイントなる事項を整理する。
フィードバックの方法	フィードバックとして、学習的を行う際に模範例を示し、実技指導内容と関連付けながら解説する。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
レポート	40%	レポートの完成度
上記以外の試験・平常点評価	60%	授業における取り組み姿勢（10%）、技能（40%）、参加度（10%）（公欠は、欠席とする）
定期試験	0%	
補足事項		

教科書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学校体育実技	細江文利他	大日本図書	9784477027616	なし
参考資料	中学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省） 『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編』ISBN9784-8278-15689			

科目名	中等体育実技VI（器械運動）		担当教員	熊谷 慎太郎	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3PPE106
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブ・ラーニングの要素	ディスカッション、ディベート				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を活かし、各種目の系統のおよび段階的な指導を行う。また、指導方法についても教授する。				
到達目標及びテーマ	中高学習指導要領に掲載されているマット運動およびとび箱運動で主に取り上げられる技を習得する。また、授業実践現場で求められる幫助の技能も習得する。				
授業の概要	まず、中高保健体育の授業実践現場で多く実施されているマット運動およびとび箱運動の技を習得、修正、洗練させる。そして、それらの指導方法や幫助方法について実践を行う。				

授業計画	
第1回	器械運動の学習指導要領上の位置づけ・授業ルールの確認・評価基準の説明・班編成・柔軟運動
第2回	マット運動①前転、後転
第3回	マット運動②開脚前転、伸膝前転、開脚後転、伸膝後転
第4回	マット運動③倒立前転、後転倒立
第5回	マット運動④側方倒立回転、ロンダート
第6回	マット運動⑤前方倒立回転跳び
第7回	マット運動実技テスト練習
第8回	マット運動実技テスト①
第9回	マット運動実技テスト②
第10回	とび箱運動①開脚跳び、抱え込み跳び
第11回	とび箱運動②台上前転、首はね跳び、頭はね跳び、前方倒立回転跳び
第12回	とび箱運動実技テスト練習
第13回	跳び箱運動実技テスト
第14回	マット運動の指導方法と幫助方法
第15回	とび箱運動の指導方法と幫助方法

事前学修	0.5時間	次の授業で実施する技の実施上のポイントを調べる。
事後学修	0.5時間	振り返りレポートに授業内容を分かりやすく記述する。
フィードバックの方法	振り返りレポートの内容によって必要な場合フィードバックを行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100%	技の評価表50 マット運動30 跳び箱運動10 レポート10
定期試験	0%	実施しない

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考

特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	器械運動指導ハンドブック・中島光広, 太田昌秀, 吉田茂, 三浦忠雄・大修館書店・ISBN3375-190350-4305 中・高校 器械運動授業づくり・三木四郎, 加藤澤男, 木村清人・大修館書店・ISBN978-469-26602-3 器械運動の授業づくり・高橋健夫, 三木四郎, 長野淳次郎, 三上肇, 大修館書店・ISBN4-469-26243-9			

科目名	中等体育実技Ⅶ（スキー）		担当教員	小栗 和雄	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	
期待される学修成果	教科教育 子ども理解				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	現場経験を生かし、学生が教育現場で活用することのできる実践的な指導法を教授する。				
到達目標及びテーマ	冬季スポーツの代表であるスキーやスノーボードを通じて、生涯スポーツを楽しく安全に行うことができる態度、技能と指導法、安全管理を学ぶ。また班別実習、集団行動を通じて豊かな人間関係を育み、コミュニケーションスキルの向上を目指す。実技では技術レベルに応じた班編成を行い、段階的な技術要領を学習する。				
授業の概要	2月中旬に岐阜県高山市内のスキー場にて3泊4日の集中講義として行う。ゲレンデ実習では、技能レベルに応じた少人数グループを編成し、段階的な滑走練習を行う。安全を考慮しながら、様々なターン滑走を楽しむこと、挑戦することを体験する。				

授業計画	
第1回	授業への取り組み・授業計画についてのガイダンスおよびグループ分け
第2回	スキー・ボードの歴史と特性
第3回	スキー：装着による雪上歩行、登行、転倒（起き上がり方）
第4回	スキー：直滑降、斜滑降
第5回	スキー：ブルークファーレンの技術と応用
第6回	スキー：ブルークボーゲンの技術と応用
第7回	スキー：ブルークボーゲンからブルークターンへの移行
第8回	スキー：ブルークターンからパラレルターンへの移行
第9回	スノーボード：前足固定によるフロントサイドターンとバックサイドターン
第10回	スノーボード：両足固定の横滑り（サイドスリップ）
第11回	スノーボード：両足固定のサイドスリップ（バックサイドとフロントサイド）
第12回	スノーボード：バックサイドターンとフロントサイドターンによるロングターン
第13回	スノーボード：緩斜面でのロングターン
第14回	スノーボード：緩斜面でのショートターン
第15回	総合的な技術の応用（ゲレンデの変化に対応できる技術）

事前学修	0.5時間	ガイダンスで学んだ内容を復習して授業や実習に臨むこと。
事後学修	0.5時間	授業終了後も引き続き技能向上、および指導法についての研究を深める。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
レポート	50%	レポート課題における論理的記述を評価する。
上記以外の試験・平常点評価	50%	各回の授業への積極的な参加度、論理的思考に基づく技能の習得度について評価する。
補足事項	実習経費：約55,000円（宿泊費、旅費、リフト券、用具レンタル、昼食など）	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料	別途資料を配布。中学校学習指導要領解説保健体育編			

科目名	中等体育実技Ⅷ（野外活動）		担当教員	稲垣 良介	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2PPE408
期待される学修成果	教科教育 学校と社会				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	教諭				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし、野外活動について指導を行う。				
到達目標及びテーマ	野外活動の意義、目的、計画、安全管理といった知識、技能について実習を通して学び、学校での野外活動の指導力を身につける。				
授業の概要	学内での講義と野外活動実習で授業を構成する。講義形式の授業にて、野外活動の意義や目的、活動内容と留意点などについての知識を身に付け、野外活動実習では、自然環境における体験プログラムを通じて、野外活動の指導法について実践的に学ぶ。学内での講義に出席しない場合は、実習への参加を許可しない。キャンプ実習の日程と場所は決定次第連絡する。野外活動実習は、若狭湾青少年自然の家で実施する。				

授業計画	
第1回	事前指導1：オリエンテーション
第2回	事前指導2：野外活動と学校教育 学校教育における野外活動の位置づけ
第3回	事前指導3：野外活動のルールとマナー、準備と心構え
第4回	実習1：入所式、入所オリエンテーション、アイスブレイキング
第5回	実習2：つどい、シーカヤック
第6回	実習3：天体観測
第7回	実習4：磯観察
第8回	実習5：ウォークラリー
第9回	実習6：スノーケリング
第10回	実習7：クラフト活動
第11回	実習8：ナイトウォーク
第12回	実習9：野外炊事
第13回	実習10：カッター訓練 1
第14回	実習11：カッター訓練 2
第15回	実習12：事後指導 野外実習での体験のまとめ

事前学修	0.5時間	野外活動の学校現場での実践の意義について理解を深めること。学校における野外活動について調べ、予備知識を得ておくこと。
事後学修	0.5時間	野外実習を通して学んだこと、考えたことについてまとめておくこと。
フィードバックの方法	レポート、各担当箇所における計画書について個別にコメントする。総合評価を説明する。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
レポート	40%	学んだことについて、身に付けた知識、学校教育における指導のあり方と関連させながら考えをまとめているか
上記以外の試験・平常点評価	60%	講義授業の取り組み方・参加態度 (30%)、キャンプ実習の取り組み方・参加態度 (40%)
定期試験	0%	

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
参考資料				

科目名	中等体育実技IX（剣道）		担当教員	煙山 千尋	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2PPE209
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	①竹刀を用いた素振りや基本打突などの基本動作を習得し、基本となる技を用いた攻防を安全に配慮しながら行うことができる。②相手を尊重する態度や、伝統的な行動の仕方について考え、実践することができる。③剣道の歴史や伝統的な考え方、基本的な技の名称や道具の使い方について正しく理解することができる。				
授業の概要	剣道の基本的な技や武道特有の伝統的な行動の仕方を理解し、剣道の授業を実践するために必要な知識及び技能、指導の方法と技術を学ぶ。技がうまくできるようになるだけでなく、安全に留意することや相手を尊重する態度、礼節を重んじる姿勢について考えを深める。				

授業計画	
第1回	剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方
第2回	防具のつけ方・礼法
第3回	足さばき・素振り・基本打突（面・小手・胴）、有効打突、残心（残身）
第4回	連続技（小手一面、小手一胴、面一面）
第5回	仕掛け技（払い面、払い小手）
第6回	出ばな技（出ばな面、出ばな小手）
第7回	引き技（引き面、引き小手、引き胴）
第8回	抜き技（面抜き胴、小手抜き面、面抜き面）
第9回	すりあげ技（小手すりあげ面、面すりあげ面）
第10回	返し技（面返し胴）、打ち落とし技（胴打ち落とし面）
第11回	互角稽古、試合のルール、審判法、試合①（個人戦1）
第12回	試合②（個人戦2）
第13回	試合③（団体戦1）
第14回	試合④（団体戦2）
第15回	試合⑤（団体戦3）

事前学修	0.5時間	各回で学ぶ内容を確認しておくこと。
事後学修	0.5時間	学んだ知識及び技能について振り返り、気づいたこと考えたことをまとめておくこと。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
定期試験	0%	なし
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業における取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	20%	技術・スキル
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への参加度・課題への取り組み（40%）。遅刻・早退は欠席数0.5回分として扱う。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	中等体育実技 X (柔道)		担当教員	今尾 省司	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED3PPE210
期待される学修成果					
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	①相手の動きに応じた基本動作、基本となる技を用いた攻防を安全に配慮しながら行い保健体育授業で学ぶべき柔道の技術を習得する。 ②相手を尊重する態度や、伝統的な行動の仕方について学び、実践する。③柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や基本的な技に名称や行い方、関連して高まる体力などを学ぶ、審判、試合の実践により公正な態度や保健体育授業で実践して行く為の基礎を培う。				
授業の概要	①相手の動きに応じた基本動作、基本となる技を用いた攻防を安全に配慮しながら行い、保健体育授業で学ぶべき柔道の技術を習得する。②相手を尊重する態度や、伝統的な行動の仕方について学び、実践する。③柔道の特性や成り立ち、伝統的な考え方や基本的な技に名称や行い方、関連して高まる体力などを学び、保健体育授業で実践して行く為の基礎を培う。				

授業計画	
第1回	柔道の特性、目的、歴史、理念、柔道着の扱い、礼法等作法、柔道授業での安全確保。
第2回	柔道をするための補助運動。受身（後ろ、横、前）固め技（抑え込み技と解き方）
第3回	基本動作（移動、体捌き、崩し、組み方）受身（前回り、横回り、前受身）低位置から高い位置での技での受身
第4回	固め技（抑え込み技と逃げ方、解き方）投技（足技、手技、腰技）の習得と約束練習
第5回	乱取練習（固め技）、伏せた相手の攻撃法。後ろ受身をする投技（足技）
第6回	約束練習（投技）乱取練習（投技）移動しながらの技のかけ方（足技、手技）
第7回	投技（腰技、手技）の習得と受身をさせる投げ方。移動しながらの約束練習
第8回	固め技（抑え込み技、絞め技、関節技）のルール説明、固め技（抑え込み技のみ）、抑え込み技の変化技、乱取練習、
第9回	連続技、変化技（投げ技から投技）。投技から抑え込み技へ。
第10回	投技の習得（手技、腰技、足技）乱取練習（投技のみ、投技から固め技）
第11回	返し技（投技）連続技（足技から足技、足技から手、腰技）自由乱取
第12回	試合の方法とルール、審判法と審判動作、簡単な試合と審判
第13回	自分の得意技の打ち込み、約束練習、投技から固め技への連続変化
第14回	試合（審判、グループでの団体戦）公正な審判、試合の反省と他の選手へのアドバイス
第15回	試合（審判、グループでの団体戦）公正な審判、試合の反省と他の選手へのアドバイス 柔道授業での安全に配慮と受身指導の復習

事前学修	0.5時間 各回で学ぶ内容を確認しておくこと。
事後学修	0.5時間 学んだ知識及び技能について振り返り、気づいたこと考えたことをまとめておくこと。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
上記以外の試験・平常点評価	100%	
定期試験	0%	
補足事項	授業における取り組み姿勢40%技術、スキル20%授業への参加度加太への取り組み40%遅刻、早退は欠席数0.5回分として扱う。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	中等体育実技XI (ダンス)		担当教員	煙山 千尋	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED2PPE111
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験					
実務経験を生かした授業内容					
到達目標及びテーマ	「現代的なリズムのダンス」や「フォークダンス」では、基本的な知識と技能を身に付けて実践できること、「創作ダンス」では様々な音楽やテーマに合わせて身体表現ができることやグループでダンスを創作することを目的とする。また、仲間の動きや表現を認め合い、安全に活動できるようにする。				
授業の概要	本授業では、中学・高校の学習指導要領に記載されている「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」「創作ダンス」の主な内容を実施する。その中で、リズムや音楽、イメージに合わせて踊ることや創ることを学習する。				

授業計画	
第1回	ガイダンス (授業計画の説明、ダンスの学習指導要領上の位置づけ、グループ分け)
第2回	フォークダンス① (タタロチカ、バージニアリール)
第3回	フォークダンス② (春駒、ハーモニカ)
第4回	フォークダンス③ (花笠音頭、エースオブダイヤモンド)
第5回	フォークダンス④ (炭坑節、ミザルー)
第6回	創作ダンス① (イメージを身体・表情・動きで表現する)
第7回	創作ダンス② (動きの特徴からテーマを決めて動きを創る)
第8回	創作ダンス③ (曲に合わせてテーマを決めて動きを創る)
第9回	創作ダンス④ (自分たちが表現したいテーマを決めて動きを創る)
第10回	創作ダンス⑤ (発表)
第11回	現代的なリズムのダンス① (ストレッチ、音楽の特徴を捉えて即興的に踊る)
第12回	現代的なリズムのダンス② (基本のステップを習得する)
第13回	現代的なリズムのダンス③ (短い振り付けを創作する)
第14回	現代的なリズムのダンス④ (様々な変化を加えながら振り付けを創作する)
第15回	現代的なリズムのダンス⑤ (発表)

事前学修	0.5時間	次回の授業で実施する学習内容について、参考図書や参考資料に目を通し、見通しをもって主体的に参加できるようにする。また、各班で授業開始時の準備運動について考えてくる。
事後学修	0.5時間	授業内で実施したステップや動き、振り付けを復習し、順番を覚えたりすることで、よりスムーズに踊れるようにする。
フィードバックの方法	授業内で使用した振り返りシートやフィードバックシートなどにコメントをする。また、実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合 (%)	評価基準等
定期試験	0%	なし
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業における取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	20%	技術・スキル
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への参加度・課題への取り組み (40%)。遅刻・早退は欠席数0.5回分として扱う。

補足事項	
------	--

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
特になし	なし	なし	なし	なし
参考資料				

科目名	中等体育実技XII（水泳）		担当教員	川口 純子	
単位	1単位	講義区分		ナンバリング	ED1PPE112
期待される学修成果	基礎教養 教科教育				
アクティブラーニングの要素	実習、フィールドワーク				
実務経験	公益財団法人日本スポーツ協会上級水泳指導員、高等学校、中等学校一級保健体育教諭、普通救命講習会受講、				
実務経験を生かした授業内容	上級水泳指導員の資格を生かし、水泳初心者から上級者向けの水泳技術を身につけ、保健体育の教員免許を生かし、水の安全と水泳の指導方法を教授する。				
到達目標及びテーマ	水泳四泳法の中で2種目以上を泳げる事と種目によっては一部指導できるようにする事を目標にする。泳法（技術）を科学的に説明し、指導できるように実習形式で授業を行う。また、授業を通して水の安全管理を理解する。				
授業の概要	バタフライ、背泳、平泳ぎ、クロールの4泳法について、それぞれキック、プル、コンビネーションに分けて泳ぐ。授業では、単に泳げるようになるだけでなく効率的な泳ぎ方などを科学的根拠に基づいて理解し説明できるようにする事で、『泳ぐ』を学ぶ。さらに、それぞれの種目の指導方法と指導のポイントや教示を学ぶ。指導方法は、段階に応じた指導のポイントを実技を通して学ぶ。また、水泳授業の安全管理について授業を通して実践できるようにする。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション 泳力の確認 クロール： クロールの特徴を理解する。キック、プル、コンビネーションのポイントを理解して泳ぐ。クロールの泳力を確認する。
第2回	クロール： けのび（ストリームライン）キック（腰かけキック、壁キックなど）、プルに分けて泳ぎ、それぞれの泳ぎのポイントを学ぶ。後半はコンビネーションとしてけのびからのクロールを泳ぐ。キックについては指導方法を学ぶ。
第3回	クロール： 距離を泳ぐために息つぎを学ぶ。けのび、けのびからのコンビネーションを中心に効率的な泳ぎを学ぶ。
第4回	クロール： 息継ぎを使ってクロールで距離を泳ぐ。けのびからストリームラインを学ぶ。
第5回	クロールと背泳： 前半は、クロールで比較的長距離を泳ぐ。後半は、背泳の泳力を確認し、背泳のプルの特徴を理解し、指導のポイントと指導方法を学び、特徴を理解して背泳を泳ぐ。
第6回	背泳： キック、プルのポイントを理解した上で分けて泳いだ後、コンビネーションのポイントを理解して泳ぐ。
第7回	背泳： コンビネーションを中心に効率的な泳ぎを学ぶ。水上での背泳のプルの練習方法と指導方法を学び、ペアになって実際に指導する。
第8回	背泳： 水上でプルの方法を学び、腰かけキックでキックの方法を学ぶ。ペアになって指導方法を学ぶ。指導内容を確認しながらコンビネーションで泳ぐ。キック、プルに分けて泳いだ後、コンビネーションとして泳ぐ。
第9回	背泳と平泳ぎ： 前半は、背泳でコンビネーションを中心に効率的な泳ぎを学ぶ。後半は平泳ぎの泳力を確認する。
第10回	平泳ぎ： 水上でキックの練習方法と指導方法を学ぶ。ペアになってキックの指導を学ぶ。その後、キックとプルに分けて泳ぎ、最後にコンビネーションとして泳ぐ。
第11回	平泳ぎ： キックとプルに分けて泳いだ後、コンビネーションとして泳ぐ。平泳ぎの水中スタートとターンを学ぶ。
第12回	平泳ぎ： コンビネーションを中心に効率的で比較的長距離を泳ぎを泳ぐ。後半は各種目のスタート（水中から）とターンを水泳の競技規則にのっとって学ぶ。
第13回	スタートとターン： 各泳法のスタート（壁キック）とターンを学ぶ。ここでは競技ルールを理解しながら泳ぐ。
第14回	泳法のまとめ： クロール、背泳、平泳ぎ、バタフライのスタート（壁キック）とターンを交えて距離をのばして泳ぐ。
第15回	総合力： スタート、ターンを交えてクロール、背泳、平泳ぎを泳ぐ。異なる種目のターンを入れて泳ぐ。総合的な泳力を確認する。

事前学修	0.5時間	次の授業で泳ぐ種目について泳ぎ方や練習方法を文献、指導書、専門書あるいは動画などで予習すること。
事後学修	0.5時間	学んだ泳ぎ方や練習方法、指導方法、指導の特徴などを記録に残し、自宅でもできるように練習方法については実際に動いて復習し、体得すること。
フィードバックの方法	実技に対し、適宜、助言や講評を行う。	

成績評価方法	割合（％）	評価基準等
--------	-------	-------

定期試験	0%	なし
上記以外の試験・平常点評価	40%	授業への取り組み姿勢
上記以外の試験・平常点評価	30%	泳力、技術の上達度
上記以外の試験・平常点評価	30%	授業への参加態度。遅刻、早退は欠席05回分として扱う
補足事項	ケガ、病気等での見学は、授業後出す課題に対して、次回授業時にレポートとして提出することで出席とする。レポート未提出の場合は、0.5回出席とする。実習等で欠席せざる得ない場合は、その都度検討する。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料				